

茨城県景気ウォッチャー調査 (平成16年9月調査分)

調査の目的

- ・ 経済の第一線で働いている人々から、景気に関する生の情報を得る。
- ・ その景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに、迅速に公表する。
- ・ 県や市町村のきめ細やかな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となる。

調査の概要

- ・ 調査客体数...県内各地域(県北, 県央, 鹿行, 県南, 県西)ごとに60名, 計300名。
- ・ 調査内容...景気の現状, 先行き判断とその判断理由。
- ・ 調査時期...四半期(6, 9, 12, 3月)ごとに実施し, 翌月公表。

結果の概要(回答率93.7%)

県全体の状況

景気現状判断D I	景気先行き判断D I	D I (Diffusion Index)とは... 景気動向を判断するために使用される指標の一つであり, 景気の方角性(景気が上向きか下向きか)をみるもので, 50が横這いを表しています。茨城県景気ウォッチャー調査では, 回答を区分ごとに点数であらわし, その点数を回答構成比(%)で乗じてD Iを算出しています。
県全体 49.9 (-0.4)	県全体 52.0 (-1.5)	
県北地域 50.4 (+1.7)	県北地域 53.4 (+3.4)	
県央地域 47.7 (-4.5)	県央地域 51.4 (-4.4)	
鹿行地域 52.2 (+1.3)	鹿行地域 51.8 (+1.3)	
県南地域 50.0 (-3.9)	県南地域 51.8 (-4.3)	
県西地域 49.1 (+3.6)	県西地域 51.4 (-3.5)	

()は前回調査(平成16年6月)との比較をしたものです。

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは、「良くなっている」・「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」の回答構成比が増加したため, 0.4ポイント減の49.9となり, 横這いを表す50を下回りました。これは, 企業動向関連D Iが53.9と前回調査を上回ったものの, 小売関連及びサービス関連を中心とした家計動向関連D Iが46.0と前回調査を下回ったためです。

3か月前の景気の先行き判断D Iは、「良くなっている」の回答構成比が減少し, 「悪くなっている」・「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため, 1.5ポイント減の52.0となりました。前回調査を下回ったものの, 引き続き横這いを表す50を上回りました。これは, 家計動向関連D Iが49.7とほぼ横這いまで減少したものの, 企業動向関連D I及び雇用関連D Iがいずれも横這いを表す50を上回ったためです。

地域別の状況

1 県北地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは50.4であり, 6月調査分と比べて1.7ポイント上回り, 横這いを表す50を上回りました。業種別にみても, 企業動向関連D Iが6月調査分を上回りましたが, 家計動向関連D Iが6月調査分を下回りました。

主な判断理由

- ・ 客足が伸びていない。他ホテルも9月は苦戦しているようだ。(観光型ホテル)
- ・ 一部の製造業及び資材関連の業種で受注が増加傾向にある。(非製造業(金融業))

(2) 先行き判断

3か月前の景気の先行き判断D Iは53.4であり, 6月調査分と比べて3.4ポイント上回り, 横這いを表す50を上回りました。また, D I値は全县を通じて最も高くなりました。業種別にみても, 家計動向関連, 企業動向関連及び

雇用関連の全てのD Iが6月調査分を上回りました。

主な判断理由

- ・地元の大企業が従業員を増員する予定である。(商店街代表者)
- ・主力製品の受注が好調で、毎日納期に追われている状況のため、人員補充及び設備投資を行っている。(製造業(電気機械器具))

2 県央地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは47.7であり、6月調査分と比べて4.5ポイント下回り、横這いを表す50を下回りました。また、D I値は全県を通じて最も低くなりました。業種別にみても、雇用関連D Iが6月調査分を上回りましたが、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが6月調査分を下回りました。

主な判断理由

- ・商店が次々と閉店して、人出がかなり減少している。(理・美容店)
- ・猛暑とオリンピック人気により、来店客数が伸びなかった。(ゲームセンター)

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断D Iは51.4であり、6月調査分と比べて4.4ポイント下回りましたが、引き続き横這いを表す50を上回りました。業種別にみても、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが6月調査分を下回りました。

主な判断理由

- ・何代も続いている店でも、まだまだ閉店するところが出てくるとされる。(理・美容店)
- ・広告料金の支払遅延が増加しており、経営資金が逼迫している企業との継続的な取引にリスクを感じる。(非製造業(広告代理業))

3 鹿行地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは52.2であり、6月調査分と比べて1.3ポイント上回り、引き続き横這いを表す50を上回りました。また、D I値は全県を通じて最も高くなりました。業種別にみても、企業動向関連D I及び雇用関連D Iが6月調査分を上回りましたが、家計動向関連D Iが6月調査分を下回りました。

主な判断理由

- ・自動車や東南アジア向けの輸出が順調で、販売数量が増加している。(製造業(金属製品))
- ・今夏の記録的な暑さには、外食産業やコンビニなどは異なり、菓子販売店はお手上げ状態であった。(小売業(菓子販売店))

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断D Iは51.8であり、6月調査分と比べて1.3ポイント上回り、引き続き横這いを表す50を上回りました。業種別にみても、企業動向関連D I及び雇用関連D Iが6月調査分を上回りましたが、家計動向関連D Iが6月調査分を下回りました。

主な判断理由

- ・大口の業務用地の注文等が数件出てきた。(非製造業(不動産業))
- ・大企業関係の接待、食事会等が一段と落ち込むと思われる。また、客単価も低下してきている。(割烹料理店)

4 県南地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは、6月調査分と比べて3.9ポイント下回り、横這いを表す50となりました。業種別にみても、家計動向関連D I及び雇用関連D Iが6月調査分を下回りました。

主な判断理由

- ・夏商戦は前半は猛暑、後半は台風の影響による天候不順で、期待していたほどの伸びは見られなかった。(スーパー)
- ・最近家族による送迎が目立ち、タクシーはなかなか利用してもらえなくなっている。(タクシー運転手)

■調査から

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断D Iは51.8であり、6月調査分と比べて4.3ポイント下回りましたが、引き続き横這いを表す50を上回りました。業種別にみても、企業動向関連D Iが6月調査分を上回りましたが、家計動向関連D I及び雇用関連D Iが6月調査分を下回りました。

主な判断理由

- ・見積りが増加しており、かなりの数の成約が見込まれる。見通しはかなり明るい。(製造業(建設業))
- ・顧客先全般で増員等人材登用が一巡し、一服感がある。(人材派遣業)

5 県西地域

(1) 現状判断

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは49.1であり、6月調査分と比べて3.6ポイント上回りましたが、引き続き横這いを表す50を下回りました。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが6月調査分を上回りました。

主な判断理由

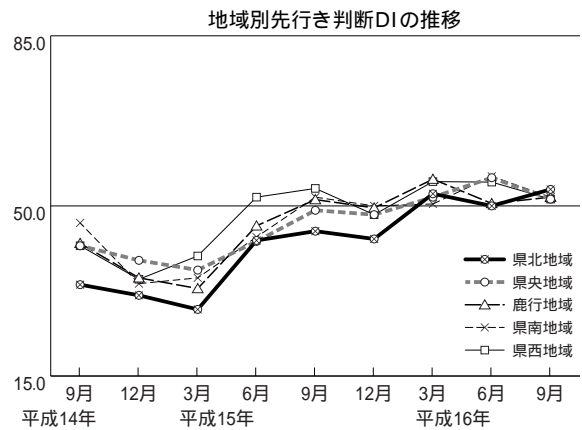
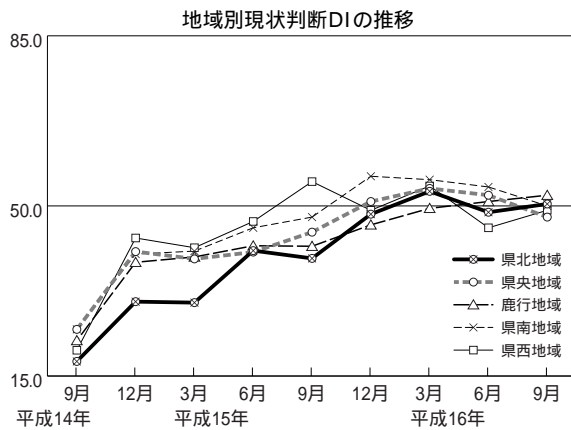
- ・集客率は伸び始めているようにも思われるが、相変わらず低料金の利用客が多い。(都市型ホテル)
- ・製造業の求人が、アウトソーシングではあるが増加している。(求人広告)

(2) 先行き判断

3か月先の景気の先行き判断D Iは51.4であり、6月調査分と比べて3.5ポイント下回りましたが、引き続き横這いを表す50を上回りました。業種別にみても、家計動向関連D I及び企業動向関連D Iが6月調査分を下回りました。

主な判断理由

- ・建設意欲が感じられず、また具体的な問合せも減少している。(建築設計事務所)
- ・米価の下落、稲作対策事業の廃止等により、今後ますます産地間競争が激化すると思われる。(農業関係者)



平成14年9月は試行調査である

「統計いばらき8月号」に掲載した、茨城県景気ウォッチャー調査(平成16年6月調査分)に誤りがありました。ここにお詫びするとともに以下のとおり訂正します。

訂正箇所は、県南地域の現状判断の「回答構成比」及び各5地域の先行き判断の「回答構成比」です。

《誤》

平成15年3月
平成15年6月
平成15年9月
平成15年12月
平成16年3月



《正》

平成15年6月
平成15年9月
平成15年12月
平成16年3月
平成16年6月